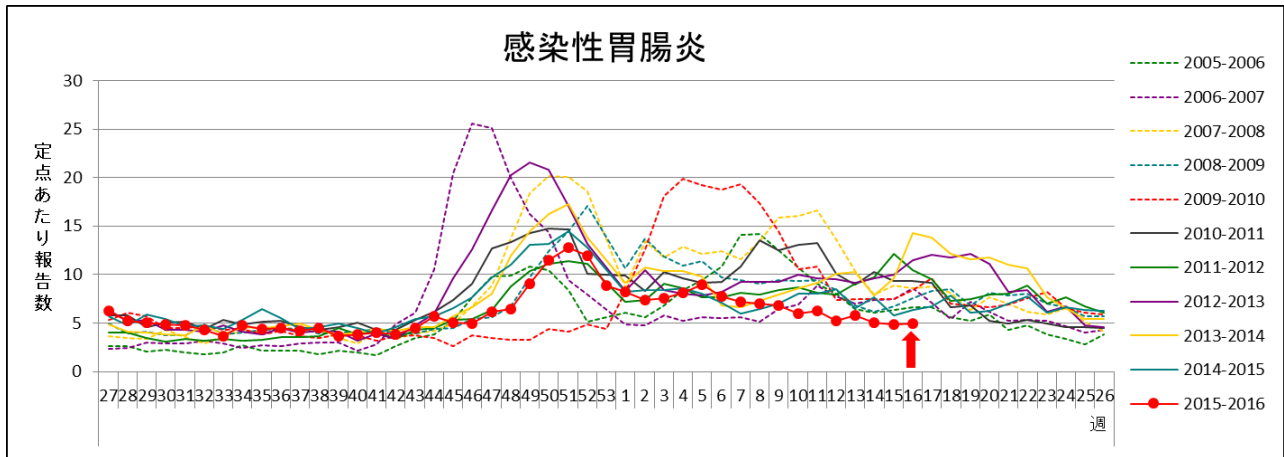


感染性胃腸炎週報 2016年 第16週 (4月18日 ~ 4月24日)

○感染性胃腸炎は、県全体で268名(定点あたり4.89 → 4.96人)の報告がありました。(54定点医療機関報告)

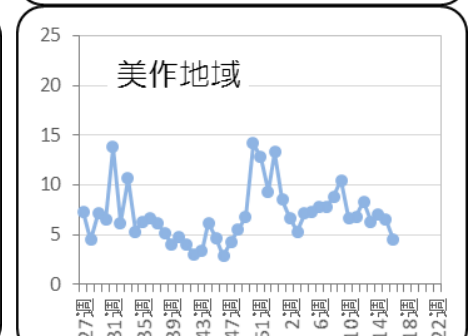
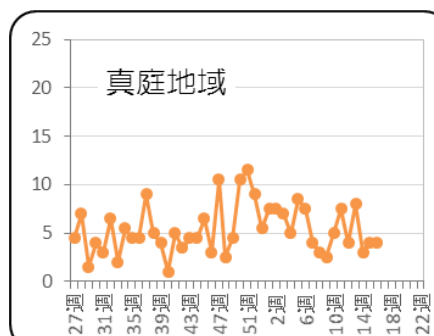
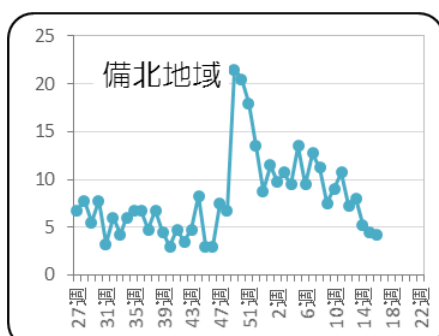
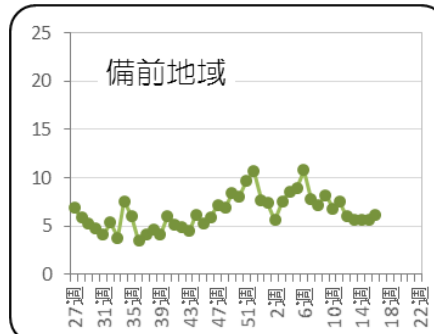
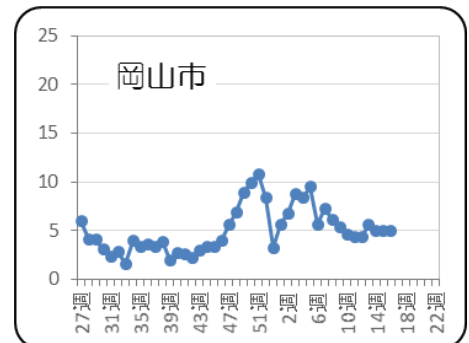
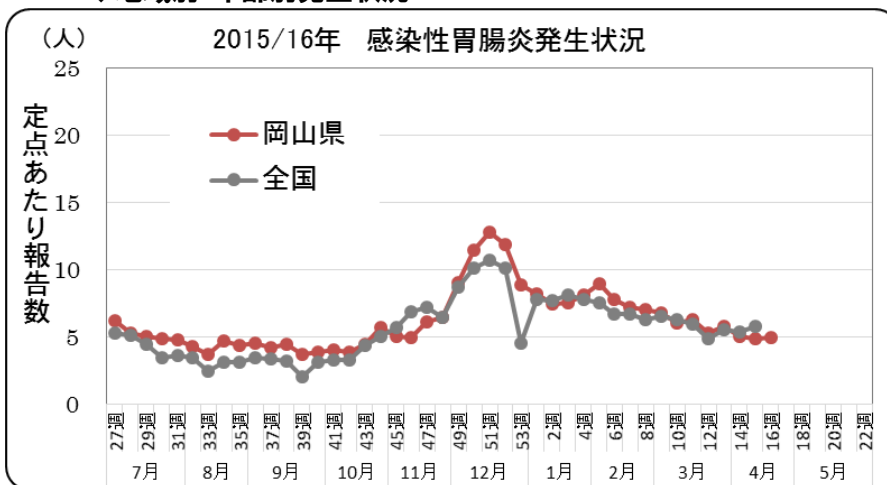


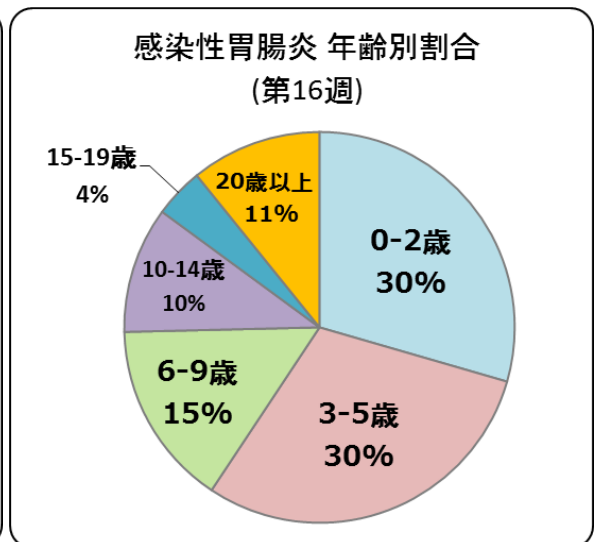
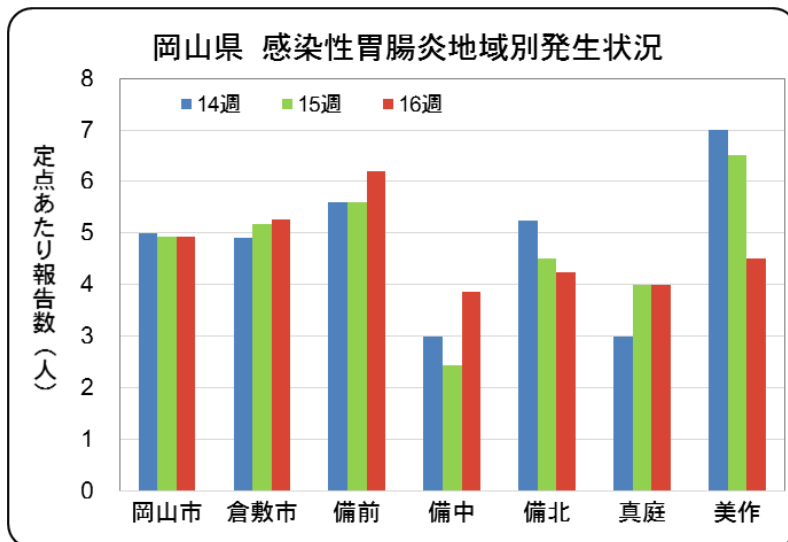
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で268名(定点あたり4.89 → 4.96人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。過去10年間の同時期と比較して、患者報告数は少ない状態ですが、依然として患者の発生は続いています。

冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いとされています。排便後、調理・食事の前には石けんと流水で十分に手を洗う、下痢便・おう吐物を適切に処理するなど、感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況





地域別では、備前地域（6.20人）、倉敷市（5.27人）、岡山市（4.93人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。第16週年齢別割合では、0-2歳・3-5歳 各30%、6-9歳 15%、20歳以上 11%の順となっています。

例年3~5月には、0~2歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状はおう吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。おう吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[ロタウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)

[ノロウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)

◆◆ ノロウイルスに感染しないためには ◆◆

1. 最も大切なことは手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

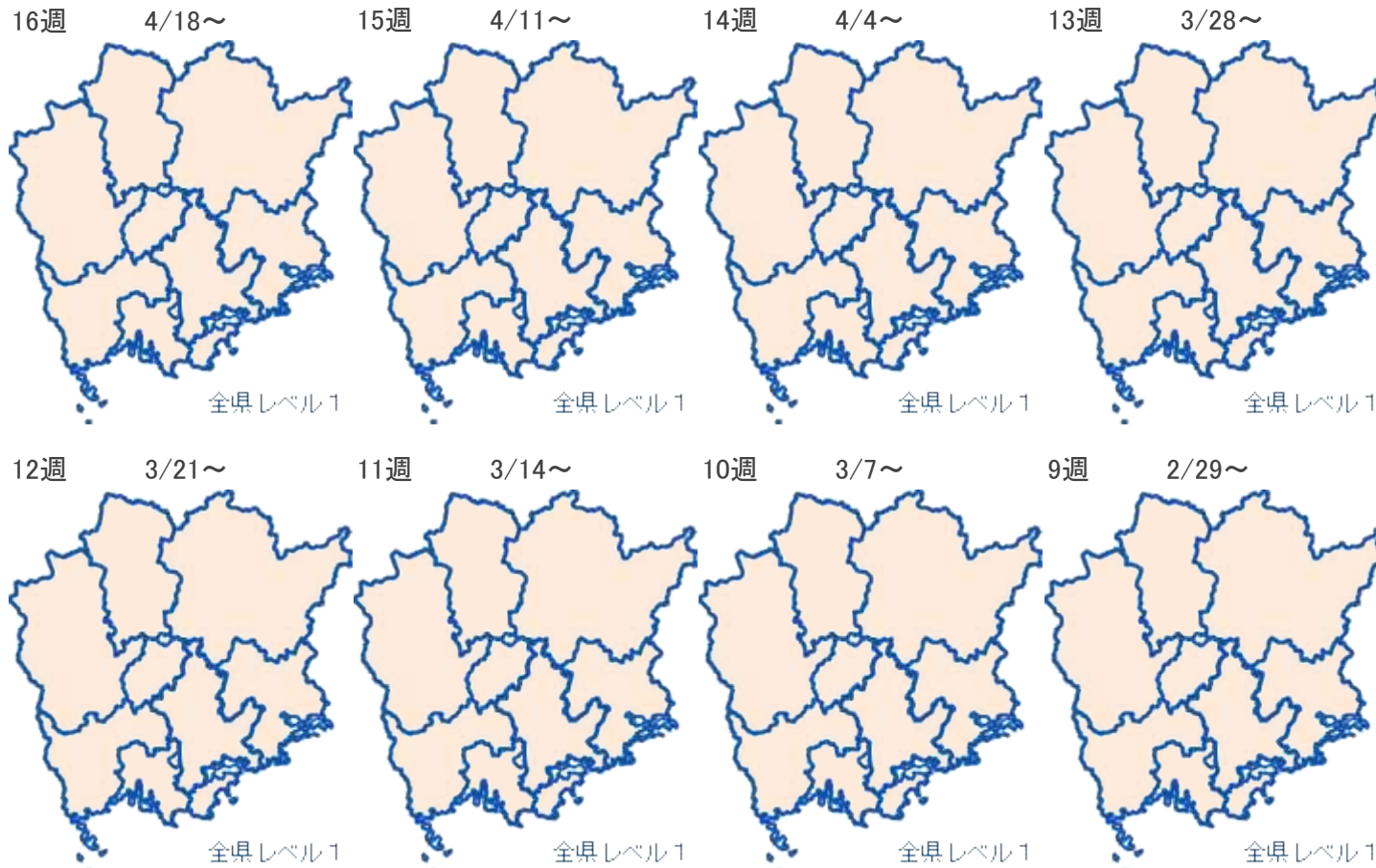
3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分間以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85~90℃で90秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。



感染性胃腸炎

レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
20	12		0 < 20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。